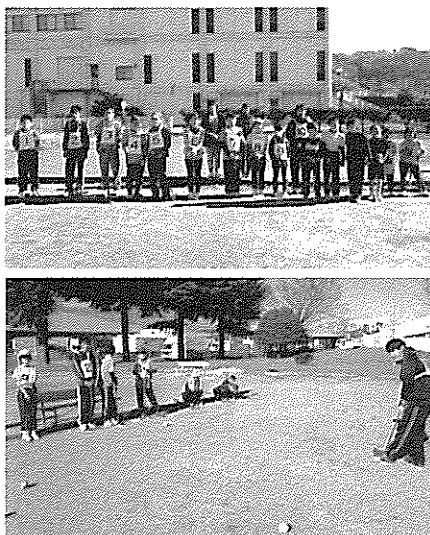


松尾少年ゲートボールクラブ

たくさんの事を学んだゲートボール

三年 西澤 ひな

わたしがゲートボールをはじめたのは、ほく園の時にいとお兄ちゃんがこのクラブに入っていて、見に来た時です。ボールをスティックで打つすがたがカッコよくて、ボールにあたっての音がひびいていました。一年生から始めて、今年で三年目です。ゲートにうまく通るようになったのは、一年生の始めのほうでした。力かけんがむずかしくて、力がつよすぎると、おくにとんでいっちゃうし、よわすぎると、ふにやふにやまがつたりしてしまおうで力かけんには、気をつけてうちます。ボールがまっすぐなところがいいように、スティックの向きにも気をつけて打ちます。ボールを打つ時のせいもだいいで、せいがかうと、へんな所へとんでいっちゃうのでせいは、だいいです。あて方もだいいでボールのまん中にあてないとまっすぐとびません。一年生の時とくらべてじょう



たつしたと思います。ゲートボールを始めて見るのときやるのちがいが、じょうたつするたのしさがわかりました。これからゲートボールクラブをつづけていこうと思います。

三年目のゲートボール

三年 宮内 結衣

わたしは、はじめのときは、上の人たちがとてもじょうずでした。わたしは、思いました。「どうもかっこいいな。」と思いましたが、でも、わたしはこう思いました。「わたしはあんなにうまくできなな。」と心配でした。一週間毎回来てひなさんとじょうずに練習しました。

それがどんどんうまくなってきたところなんかい思いました。「ゲートボールってこんなにもしろいんだ。」それから上の人がどんどんやめていったりと上の人が入ってきたりがたくさんでした。

それから今年二年目わたしと、ひなさんは、毎週楽しくやっています。冬になるさい後の日十二日、さい後のゲートボールの日「どうもさみしいな。」

と思った。今年さい後のゲートボールたくさんもう上がった。今日はとてもたのしかった。また来年もたのしみたいです。

クラブ・教室だより

はつきりクラブ

代表 村松 淳子

初めまして、はつきりクラブです。はつきりクラブって何の勉強する処？とよく聞かれます。信州飯田岳風会、青少年松尾支部、「はつきりクラブ」です。詩吟の勉強をしています。日本の代表的な作者の漢詩や、短歌、俳句、新体詩等に節を付けて吟じます。中国の作者、李白、杜甫他の作品も沢山あります。初めは、少々戸惑いますが、少しずつ慣れてきて、一定の吟じ方を覚えれば大きな声も、お腹の底から出るようになり、詩の内容も解って、健康にも良いと、教えられてきました。本会は、伊賀良に事務所を構え、大会の運営や、毎月勉強会を開いて連絡を取り合っています。支部大会、飯伊大会と行事があり参加出来る範囲で、勉強させてもらっています。今の勉強がきつと将来の人生に、役に立つ事と信じています。一度教場を、のぞいてみて下さい。

松尾少年野球教室

目標に向かって

代表 小川 成實

松尾少年野球教室では野球を通して礼節を学び、学年の隔たりなく白球を追いかけます。教室は四月〜十二月の期間ですが一月のオフトレから各自目標に向けた練習を行い、四月から始まる大会に備えています。



第37回少年野球山本大会
松尾少年野球教室



練習は基本的に五・六年生は毎週土・日曜日、一・四年生は日曜日に小学校グラウンドで午前中に行っています。行事として、焼肉大会、ボーリング大会、りんごん参加少年野球松尾大会、各野球大会へ参加を行っています。

本年度の成績は優勝二回・準優勝三回でしたが、最後に負け知らずで終われ、子供達・監督・コーチ・保護者みなで感激できた事は大変良い思い出になりました。

一生懸命目標に向かって頑張れば結果が訪れて来る。この先、子供達が成長して行く時にどうしたら目標が実るか解って、くれれば良いと感じました。

少年野球教室は、体験教室など野球に触れ興味を持っていただくきっかけ作りや、年中野球体験の場を開放してあります。野球ばかりでなく各行事を通して交流できれば良いと思っておりますので是非野球教室にお越し下さい、宜しくお願いいたします。

松尾育成会便り

モデルロケット打ち上げ

平成28年度 第36号
松尾地区まちづくり委員会 公民館 育成部
青少年健全育成会

十一月九日、松尾小学校の六年生を対象にモデルロケットの制作と打ち上げを行った。おもしろ科学工房の三浦宏子先生を講師に、松尾サイエンスと育成会のスタッフ二十七名で、児童たちの指導にあたった。ここ数年は、小学校生活最後の思い出にと、六年生を対象に行っている。絶好の打ち上げ日和に恵まれ、青空に百三十四名の思いを乗せて、高く打ち上がった。

モデルロケット作り

六年 村松 蓮斗

今日、三、四時間目を使ってモデルロケットを作りました。最初はかざるだけの置物のような物だろうと思いましたが、実際に説明を聞いてみると、火薬とかパラシュートとか言っていたので、「本当にとぶんだ。」とビックリしました。作り方はとても難しく一回、二回、ボランティヤの人に手伝ってもらいました。ロケットが完成した時、「やっどできた。」と思いましたが、まだ完成ではなく、調整やパラシュート作りをしました。いざとはすと、青い空に向かって真つすぐとびました。そして「バッ。」と開き自分のところになると思ったら風で体育館の屋根の上のつてしまいました。ロケット作りはいくら小さいモデルロケットでも少しのずれでうまくとばないの大変だなあと思いました。

ロケットを作ってみて

六年 宮島 叶夢

十一月九日に科学実験教室で松尾サイエンスの人たちに、作り方を教えてもらいロケットを作り、打ち上げをしました。ぼくたちが作ったロケットは、飛び立つ仕組みは、本物のロケットと同じで、燃料をもやして、その勢いで飛び上がっていきと講しのみうら先生が教えてくれました。見た目は簡単そうでしたが、紙を丸めたり火薬をつつくつつけるのが難しかったです。

打ち上げは、校庭で行いました。ロケットをロケット打ち上げ機に設置してカウントダウンをみんなで行いながら打ち上げて行き



ました。ぼくは一番最初に打ち上げました。ぼくのロケットは、勢い良く打ち上がり高く飛んで行き、パラシュートが開いてゆっくり落ちてきました。ロケットの制作や打ち上げができ、とても良い経験になってよかったです。

科学実験教室

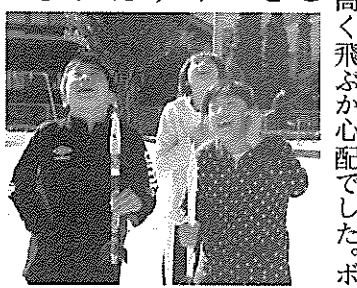
六年 岩間 琉星



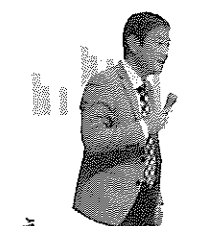
「楽しみなな〜」 今日、とっても楽しみにしていた科学実験教室に参加しました。朝から楽しみにしていたけど、実験教室は、二時間目なので、すぐに楽しみがやってきました。家庭科室に行くのと、いかにロケットを作っているのかなおぼさんがいらつしやつた。班に分れて、ついにロケット作りにとりかかった。まず、火薬を両面テープでカレンダーにつけ、そのままカレンダーをくるくる巻きにした。ちよつと難しかった。次に、ロケットと言えはこれ一羽を取り付けた。少し難しかった。その次は、ロケット本体と、プラスチックのちよつとしたつを、ゴムで硬く結んだ。(まあテープではつた)若干難しかった。またその次は、ロケットと言つたらこれ、パラシュートを取付けた。めちやめちや難しかった。最後に、本体にストローを取り付けた。めちやめちや簡単だった。

そして、ついにロケットを飛ばす時がやってきた。ロケットを、専用の装置に取り付け、ついに、発射した。「ビューン」「バン」パラシュートもちゃんとひらき、ついに

に着地した。なんだか感動的だった。今日は、ロケットのために二時間費やせてよかったです。 家庭科室では「ロケット」を作りました。すく難しかったのは、カレンダーを丸める所と羽を付ける所です。カレンダーが上手く丸まってくれなくて少し難しかったです。羽は、ロケットから垂直に付けないといけなかったため、難しかったです。でも、完成して発射して飛んだ時はすくうれしかったです。 今日、三、四時間目に科学実験教室がありました。一組と合同でやりました。とても楽しかったです。 まず、ロケットを作りました。サイエンスの方がたくさん来ていたので、作り方を教えてもらいながら、やりました。むずかしいところもあつたけど、教えてくれたので、上手に作る事ができました。 次に、校庭に出て、ロケットを飛ばしに行きました。高く飛ぶか心配でした。ポタンをおすとすくすくどきどきしました。ロケットが高く飛んだのですくよかったです。それに楽しくできました。



長田徹先生講演会「今こそ、学校・家庭・地域の絆を深めよう！」



え 供ながらに考 大人により

十月二十九日、文部科学省の長田徹先生をお招きして、「今こそ、学校・家庭・地域の絆を深めよう！」と題して講演会を行いました。東日本大震災を体験したことに基づき、「地域ぐるみの子育て」の大切さをお話しいただきました。

子供の力は偉大
 教育部長 永井亮敏
 「実は、何百枚も写したんですが、しかし今日、皆さんにお見せできるのは、数枚しかありません。」去る十月二十九日、小柴昌俊科学賞を受賞し、現在文部科学省教科調査官の、長田徹先生をお迎えし、松尾の各教育機関を含む実行委員会主催による、「今こそ、学校・家庭・地域の絆を深めよう」講演会が開かれました。多勢の松尾住民の参加のもと大成功の講演会でした。特にこの講演会に尽力された、松澤育成会会長はじめ、実行委員会の役員の方々の努力に感謝致します。あの2011.3.11東北大地震、未曾有の大惨事に遭遇し、ライフラインが全て絶たれる中、宮城県内の学校の状況を確認するために奔走し、避難所となった学校のサポートや被災地の支援に当たった時の、長田先生の話は、今さらのように、その時の悲惨さを思い、その写真を見せられないわけを言葉の裏に感じる事ができました。又、悲しみにくられる大人を、はげまし、子供ながらに考える大人により

そう子供達の力の大きさにも感銘を受けました。天災は、人知を越えた想定外の所におこります。私達松尾を愛する住民も、今こそ子供達の力を信じて育ち、地域の絆を強め、何があっても対処できるように心を合わせていきましょう。

長田先生の講演会に参加しての感想
 部長 宮川成彦
 先生のお話をお聴きして感じたのは「子供達が持っている可能性」という事でした。

いくら震災の話をお聴き、映像を見ても私達の想像の域を越えた悲惨な状況の中で、子供達の純粋な、まっすぐな姿がどれほど被災地の方々の慰めになり、励みになった事でしょう。東北の静かなきれいな空気の中で育った子供達からできた事ではなく、子供達は皆同様に純粋な心と限りない可能性を秘めてこの世に生まれてくるのだと思います。

この「可能性」を見守り、伸ばしてあげることが私達親の大人の務めであると感じました。

講演会の冒頭、強烈な東北弁と若干の冗談を交えた自己紹介により、一気に先生の話に引き込まれました。東日本大震災の情報は、報道された内容しか知り得なかつたのですが、先生の話で、本当の生々しさが理解でき、思わず涙してしまいました。また、極限の状況の中で、子供たちが自律していく様子が目に浮かびました。昨今は、近所付き合いが希薄となり、大人たちは、地域の子供たちへの関心が低くなつております。この地域も大規模地震の脅威に備えることは必要です。改めて「地域の子供は地域で育てる」とこの大切さを認識しました。

新しい年を迎え、地域の皆様温かく見守られながら子供たちもすくすくと育っています。

八幡支部では、二月八日に行われたどんど焼きを紹介しようと思います。今年度は年番ということも八幡支部では、八月八日に行われたどんど焼きを紹介しようと思います。今年度は年番ということもあり、八幡神社に集まったお札やお守り、しめ縄などをどんど焼きで燃やすことになりました。八幡地区の皆様のご協力をいただき、おんべ作りをしました。高学年を中心に門松やだるまを集め、柱となる竹を切り出し、大量のお札やお守りの燃えないものの分別をし、大きなしめ縄を使いながら、区長をはじめ経験豊富な先輩方のご指導のもと、立派なおんべが完成しました。さすがは八幡町の子供たち、みんなで協力しておんべ作りを楽しんでいました。当日は五時四十分には点火を行い、八幡公園に大きな火柱が上がりました。大きな火に熱い熱いと言いつつ目を輝かせる子供たちがいました。それぞれに餅を焼き、今年も風邪をひかず、良い年になりますようにと願いを込めて、餅を頬張っていました。

今後皆様のご支援をいただき、PTA活動を見守って頂ければ幸いです。

講演会が終わってから語られたこと
 育成会会長 松澤秀明
 講演会の終わりで、勝野公民館長さんが被災地を訪れた際、子どもが自分の膝上に乗ってきた体験をもとに、「子ども達の心の有様が心配だ。」と質問され、長田先生は「実はその通りで、不登校児童生徒が急増しています。」とお話がありました。

講演会が終わって控室に戻つても、その事が話題になり、その続きを何人かでお聞きしました。

○子どもばかりでなく、実は先生方も心の問題で休職者が急激に多くなつているとの事。子どもも、大人も、二年間位は歯を食いしばつてやってきましたが、五年が経つと、その力も抜けて心的症状が現れて来ているというのです。

○災害救助に入った自衛隊員の方々が、遺体の収集作業の辛さから、多くの方が辞めておられるというのです。

○三日前に判決が出された石巻市立大川小学校の事も話題になりました。長田先生は、「裏山に逃げられたとの判断が出されていますが、自分も同じ学区の中学校に勤務をした経験がありますが、道もなく急峻な裏山に、小学校の低学年の子ども達に逃げるとは、言えないかも。」と話されていました。

いずれの事も、報道では伝えられていない事実であり、心の問題を含めて被災という本当の姿の大きさと深さを教えられました。この事はこれからもずっと続くという事を忘れてはならないと思います。



講演会に参加した方々

わくわくする感動を！



おもしろ科学工房 三浦宏子 松尾小学校でモデルロケット教室が始まって六年目になります。

「二時限目を使って、一人ひとり自分のロケットを制作します。子どもたちの中には工作が苦手な子、好きな子、興味のない子いろんな子どもがいるので授業として扱うことが重要だと思えます。ロケット本体を作るだけでも沢山の工程があります。長さは？太さは？慣れない手つきで子どもたちは迷いながらも試行錯誤して作り始めます。そんな子どもたちをしっかりとサポートする育成会や松尾サイエンス、おもしろ科学工房のスタッフたち。ロケットの形が出来上がり始めると、子どもたちは暗ればれとした顔にかわります。難しいものを作り上げた達成感と打ち上げの楽しみが沸いてくるのです。ものの作りの醍醐味です。

ロケット打ち上げの瞬間、皆が見守る中、カウントダウンと共に空高く白い煙を吹いて飛んでいくロケット。わあーという歓声と共に何とも言えない感動に包まれます。理科が好きの子も嫌いな子も、松尾小の広いグラウンドで、クラスのみならず、ロケットを打ち上げた感動は大人になっても心に残ることでしょう。

松尾には航空宇宙産業クラスター拠点工場があります。この体験を通じて子どもたちが、科学に興味を持ち、将来飯田に帰って地元産業を支える人になつてくれればと思います。

地区だより



餅つき大会が新井地区では、八月八日に、新井分館と福寿の会主催による、おやす作りと

餅つき大会が行われました。おやす作りは毎年、福寿の会のみならず、ご指導をお願いして親切丁寧に教えてもらい、おやすを作っています。自分の手で作ったおやすは、買った物とはちがった、意味合いがあり、子供達も喜んでいました。

餅つき大会は新井地区では、初めての試みで、昔ながらの杵と臼を使って餅つきをしてみました。初めて持つ杵を振り下ろすのは、子供には重くたいへんでしたが、楽しく餅つきができました。ついた餅はあんこやきなこ等にまぶして、おいしくいただきました。

子供達には、この様な行事を地区の方々と共に継承して行けたら良いと思います。

新井地区

おやす作りと餅つき大会
 支部長 丸山俊弘

八幡地区

どんど焼き
 支部長 西尾昌晃



新しい年を迎え、地域の皆様温かく見守られながら子供たちもすくすくと育っています。

八幡支部では、二月八日に行われたどんど焼きを紹介しようと思います。今年度は年番ということもあり、八幡神社に集まったお札やお守り、しめ縄などをどんど焼きで燃やすことになりました。八幡地区の皆様のご協力をいただき、おんべ作りをしました。高学年を中心に門松やだるまを集め、柱となる竹を切り出し、大量のお札やお守りの燃えないものの分別をし、大きなしめ縄を使いながら、区長をはじめ経験豊富な先輩方のご指導のもと、立派なおんべが完成しました。さすがは八幡町の子供たち、みんなで協力しておんべ作りを楽しんでいました。当日は五時四十分には点火を行い、八幡公園に大きな火柱が上がりました。大きな火に熱い熱いと言いつつ目を輝かせる子供たちがいました。それぞれに餅を焼き、今年も風邪をひかず、良い年になりますようにと願いを込めて、餅を頬張っていました。

今後皆様のご支援をいただき、PTA活動を見守って頂ければ幸いです。

常盤台地区

常盤台PTA
 支部長 中島 誠



本年度常盤台地区の支部長として、PTA活動を進めさせていただきました。四月の一年生を迎える会からスタートし、六月は、資源回収を行いました。また、八月には、地区で毎年行われる納涼祭が、八幡祭の年番であったため、中止となり、その行事に代わる「お楽しみ会」を行いました。子供たちの楽しめることを考え、すいか割りや計画しました。大きなすいかを五つ用意し、低学年と高学年に分かれてやりました。子供たちは、とても盛り上がり、割れたすいかを、みんなでおいしくいただきました。九月には、八幡祭がありました。高学年の児童は、昼の部のみこしかつぎから、夜の部のみこしかつぎの長い時間、最後まで元気にかつぎ回りました。そして、二月、どんど焼きを行いました。六年生の児童は、朝早くから集合し、鈴を鳴らしながら、地区を回ってもらいました。地域の方にもたくさん参加していただき、おもちを焼いて楽しい時間を過ごしました。

どんど焼きも終わり、支部長としての活動も残りわずかとなりました。地区の方、役員のみならずの協力のもと、ここまでやってきました。子供たちが安全で楽しく過ごせるよう、次年度へ引き続きしていきます。